

物部川流域ふるさと交流推進協議会森林整備事業
活動状況報告書

1. 事業主体 三嶺の森をまもるみんなの会

2. 事業名

児童参加によるブナ等の植林と熊の森づくりー奥物部みやびの丘にて

3. 事業の目的と実施状況

参加者：春季～5月9日（参加者約80名） 秋期～10月31日（参加者約40名）

* 目的の第一は環境教育 シカ食害状況、絶滅危惧種のツキノワグマの話



駐車場で、概況・日程説明後、シカ食害による林内のササと樹木の被害状況を観察

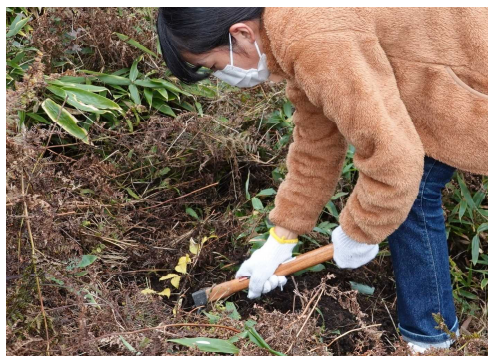


歩道の途中にてササや樹木の被害及び防鹿柵の内外の違いを観察

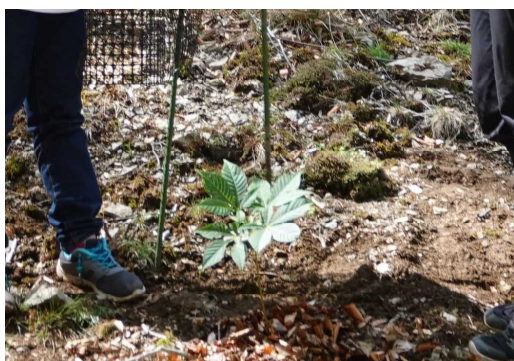


山頂にて、ツキノワグマの生態や冬眠前のエサとなるドングリの大きさを学ぶ

* 目的の第二は、山頂付近のブナの後継樹を作ること 次世代の植樹



* 目的の第三は、熊の森づくり ツキノワグマのエサとなる木を植える（ブナ、ミズナラとトチノキ）をみやびの丘の中腹部に植える



三嶺の美 取り戻そう
香美市 小中高生80人植樹

【香長】シカの食害で荒れた山を美しい姿に戻そうとこのほど、香美市内外の小中高生ら約80人が同市物部町の三嶺山系「みやびの丘」で植樹活動を行った。

三嶺の森をまもるみんなの会（依光良三代表）の主催。9日、同



シカの食害に遭った「みやびの丘」に苗を植える参加者（香美市物部町）

足跡などを観察。新緑が美しかった頃に撮影した写真と現状を比べ、被害の深刻さを目の当たりにした。

その後、ブナやミズナラ、トチノキなどの苗約70本を植樹。食害を防ぐためにネットを周りを囲った。

初めて参加した高知商業高2年の小松大耀さん(16)は「実際に被害の現場を見ることが、日頃の活動の目的もより明確になった。同世代にも現状を知ってほしい。依光代表は「山を守る人も世代交代しないといけない。若い世代が森林を守る大切さを知る機会になればうれしい」と話していた。

(小笠原舞香)

事業の効果は、十分な成果が上がったと思われます。特に、香美市子どもエコクラブは、壁新聞に山の活動も掲載し、全国コンクールにて特別賞を授与されています。